

1 ご挨拶

この度はベルギーに本社、工場を置くSAEY HEATING社が製造した【GUSTAV-グスタフ】をお選びいただき誠にありがとうございます。
当ストーブはSAEY HEATING社の長い歴史のなかで積み上げられた確かな技術と熟練工が自信を持って製造し、お届けいたしました。
今後長い年月に渡りご使用していただくに当たり、この取り扱い説明書は大切に保管してください。

2 保証についてのご説明

SAEY HEATING社【GUSTAV-グスタフ】にはお買い上げの日から1年間、ストーブ本体に対してメーカー本社が品質保証を行っています。
但し、下記条件に当てはまる場合は保証対象から外れてしまうことをあらかじめご承知ください。
保証は施工業者からの請求書に記載された施工日を起点として有効となりますので、請求書(および納品書など)は大切に保管してください。

- 本来の目的(暖房)以外で使用された場合
- 施工不良が原因とみなされる場合
- シーリング材などの消耗品および交換
- 改造などがなされた場合
- 解体、組み立てが指定業者以外でなされた場合
- 必要なメンテナンスを行っていなかった場合

3 お届け時の梱包について

SAEY HEATING社の【GUSTAV-グスタフ】は、工場出荷からお客様のお手元まで、安全かつ確実にお届けするために必要な梱包材で守られています。
しかし長距離輸送の間に万が一の破損、紛失が無いとはいきりませんので、配達された時点で下記の内容物が含まれているか、損傷は無いかをご確認ください。

- グスタフ・ストーブ本体(1)
- ハンドル(1)
- 耐熱グローブ(1組)
- マニュアル(1)(英文マニュアルです。当日本語取り扱い説明書にて差し替えとなります。)

使用されている梱包材(木材、厚紙など)は全て環境に配慮した資材を使用しています。
廃棄に当たっては、各市町村の仕分けルールに従って処分してください。

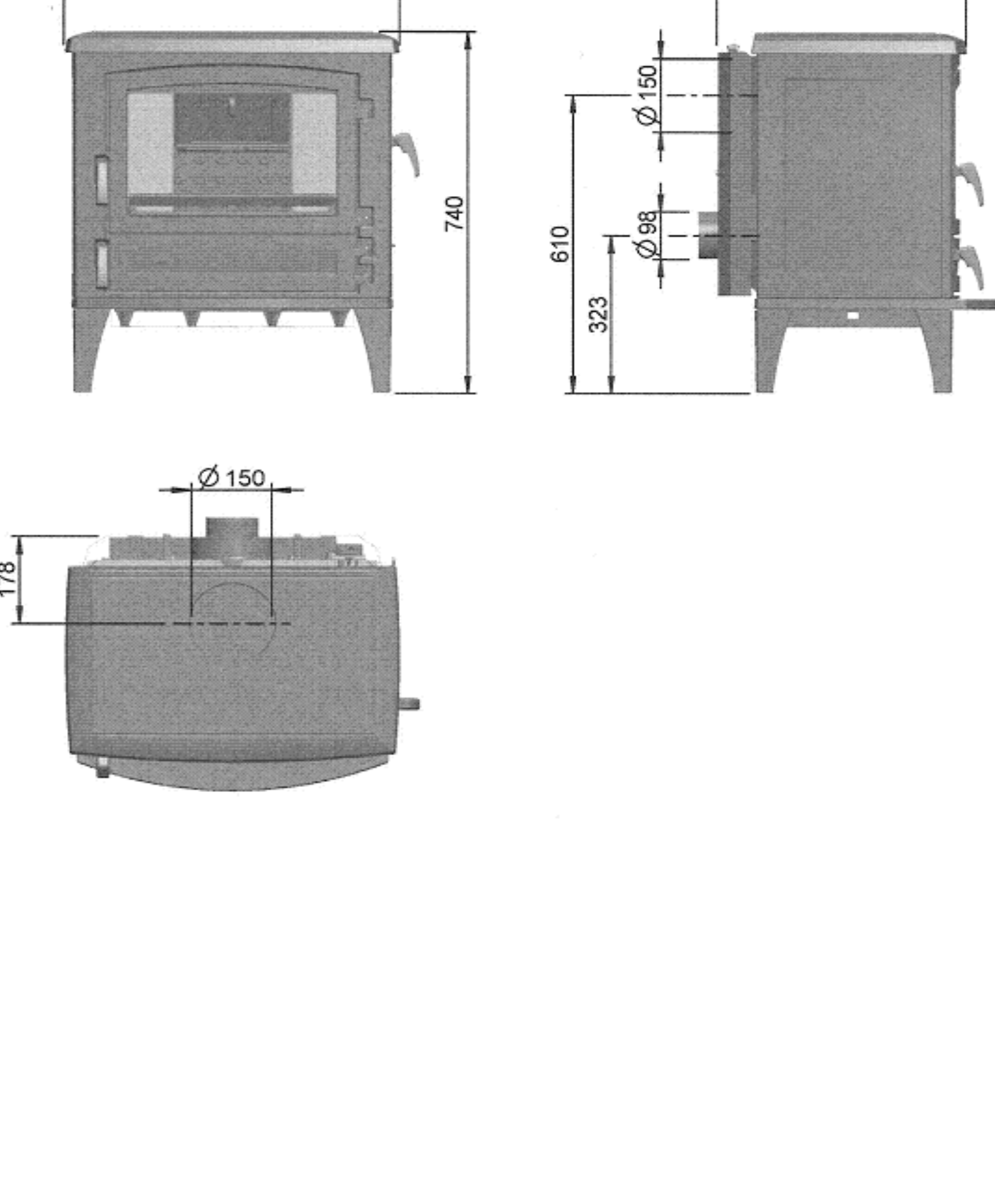
4 安全にご使用いただくために

SAEY HEATING社製【GUSTAV-グスタフ】を安全にご使用いただくために下記を必ずお守りください。

- 設置前、ご使用前に当取り扱い説明書をよくお読みください。
ご質問、疑問点などございましたら設置工事を行った業者までお問合せください。
- 燃焼中のストーブは本体および接続部品全てが熱を持っています。直接触れるとやけどなどの重大事故を引き起こしますので、必ず耐熱グローブなどをご使用ください。
- 特にお子様がいるご家庭では、お子様に上記の危険性を充分に説明してください。
また燃焼中のストーブに近寄らない様しっかりと注意してください。
さらにストーブの周囲に「柵」などの接近予防策を施してください。
- 本体および排煙筒の近くに燃えやすい物を置かないでください。
- ストーブトップ(天板)などにやかん、鍋などを置かないでください。
吹きこぼれなどで火傷を負ったり、本体が損傷する場合があります。
- 本体および排煙筒に衣服やタオルを掛けて乾かさなさないでください。
止むを得ない場合は本体、排煙筒から十分な距離をとって干してください。
この場合でも、必ず常時監視できる状態を保ってください。
- 薪を燃焼させている間は、同じ部屋で可燃ガスを使用しないでください。
スプレー式の殺虫剤、整髪剤、デオドラントなども大変危険です。
- 燃料にはよく乾燥させた「薪」のみをご使用ください。
紙類(カーテン、新聞など)、石炭類(豆炭、炭など)、合板類など「乾燥した木材=薪」以外の燃料を使用(燃焼)する設計にはなっていません。
- 設置前、設置後に問わず「改造」は決してしないでください。
必ず設置業者にご相談ください。
- 部品の交換、修理においては、必ず本体メーカー製造の純正品部品をご使用ください。
調子が悪いなどの場合は、すぐに設置業者に連絡してください。
- 2台以上の薪ストーブ、ガスストーブなどを1本の排煙筒に繋いで使用しないでください。
- エナメル仕上げの本体、排煙筒は燃焼熱によってその色が変化しますが、燃焼が止まり熱が冷めるに従って徐々にもとの色に戻ります。
- 適温(本体温度が150~250℃の範囲)で燃焼を継続するように調整してください。
高温、低温での長時間燃焼は、本体、排煙筒に悪影響を及ぼします。

5 諸元表

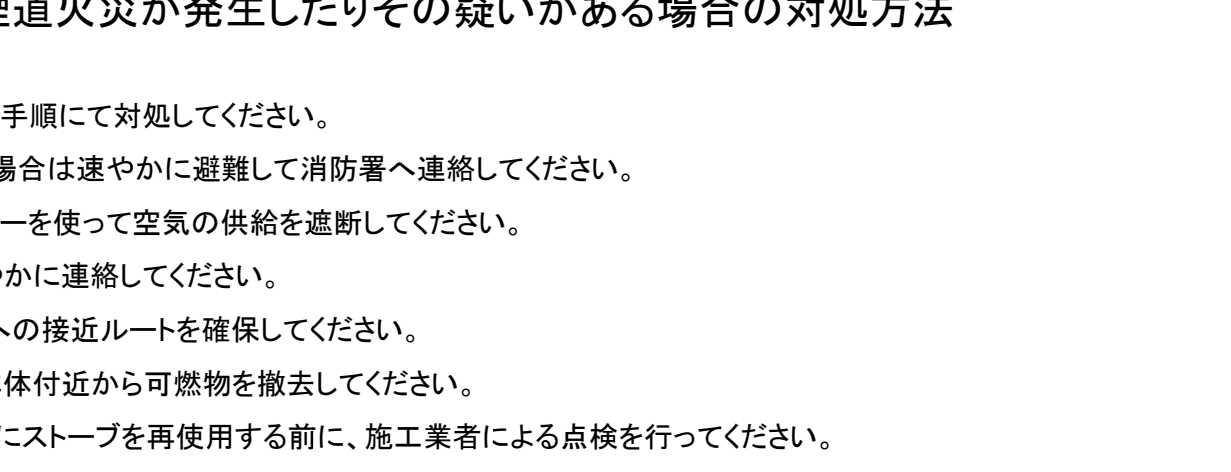
項目	単位	GUSTAV(グスタフ)
通常温度での熱量	kW	9
最低熱量 - 最高熱量	kW	4 - 13
燃焼効率	%	81.1
一酸化炭素発生率(酸素濃度13%時)	%	0.1
煤の排出量	mg/Nm3	36
排煙温度(通常燃焼時)	℃	204
サイズおよび重量など		
本体の高さ	mm	740
巾	mm	625
奥行	mm	465
排煙筒接続位置		上面 もしくは 背面
背面接続時の排煙筒中心線から床までの距離	mm	610
上面接続時の排煙筒中心線から本体背面までの距離	mm	178
排煙筒口径	mm	150
外気導入筒口径	mm	100
重量	kg	188
施工時の参考データ		
排煙筒のドラフト(通常燃焼時)	Pa	12
推奨される排煙筒のドラフト	Pa	10 - 20
外気供給量	m3/h	35
燃料について		
燃料(燃やしても良いもの)		薪
燃料消費量(通常時)	kg	3.5
燃料消費量(最高温度燃焼時)	kg	4.5
薪の水分率(最高限度)	%	20
薪の水分率(推奨)	%	13未満
投入できる薪の最長サイズ(横置き)	mm	380
投入できる薪の最長サイズ(斜め置き)	mm	400
投入できる薪の最大口径	mm	300



6 設置に際しての注意点

薪ストーブの設置は、設置地域の条例などを守り施工してください。

- 設置場所について
薪ストーブは重量物です。既存の床などがその重量に耐えない場合は補強工事を行ったうえで設置してください。
水平な場所に設置してください。
水平に数ミリ程度の誤差がある場合は、本体の足についてのボルトで微調整を行い、本体を必ず水平に保ってください。(スパナサイズ13)
- 接続パイプ および 排煙筒
接続パイプ、排煙筒は本体の排煙筒接続口径(150mm)に合ったものをご使用ください。
異なった口径の場合、排気漏れ、タール汚染、ドラフト不足などを引き起こす可能性があります。
推奨する排煙筒のドラフトは12~20Pa(パスカル)です。
もしこの範囲を超えたドラフトの場合はダンパーを設置して調整してください。
ドラフト不足の場合は下記の手段を試してください。
1)排煙筒を延長する。
2)放熱の少ない2重タイプ、断熱タイプに交換して排気温度を上げる。
3)ストーブ本体設置の部屋に、より多くの空気を供給する。
4)排煙筒の気密を上げる(接続部の隙間やピンホールから空気を吸い込まないようにする)。
- トラブルを未然に防ぐ(予防策)
薪ストーブのトラブルの多くは排煙筒に起因しています。下記を参考に予防策を行ってください。
● 排煙筒は円形をお薦めします(角型では抵抗がより多くなりドラフトを阻害します)
● 排煙筒の口径は本体から出口まで同じサイズを保ってください。
● 排煙筒の出口はふさがりがないでください。
● 縦方向の排煙筒の長さは「横方向」の2倍以上を確保してください。
● 直角曲げは出来るだけ少なくしてください。
● 排煙筒のトップ(最終出口)から空気が入り込まないようにしてください。
● 排煙筒トップの位置に注意してください。
下図の【zone 1】に排煙筒トップが位置するように施工してください。



7 もし万が一煙道火災が発生したりその疑いがある場合の対処方法

落ちて危険を感じた手順にて対処してください。
もし危険を感じた場合は速やかに避難して消防署へ連絡してください。

- 1) 空気調整レバーを使って空気の供給を遮断してください。
- 2) 消防署へ速やかに連絡してください。
- 3) 排煙筒トップへの接近ルートを確認してください。
- 4) 排煙筒及び本体付近から可燃物を撤去してください。
- 5) 消火、鎮火後にストーブを再使用する前に、施工業者による点検を行ってください。
- 6) 施工業者による排煙筒の確認および必要な再施工を受けてください。

■ 煙道火災を未然に防ぐ方法(お勧め)
ストーブを使用する際には、必ず10分程度の最高温度燃焼を心がけてください。
この最高燃焼排気が、煙道火災の元となる煤・タールなどを燃やし蓄積を最小限に抑えます。
またこの最高温度燃焼は本体正面の耐熱ガラスのクリーニングにもなるのでお勧めします。

8 ストーブ本体と排煙筒の接続

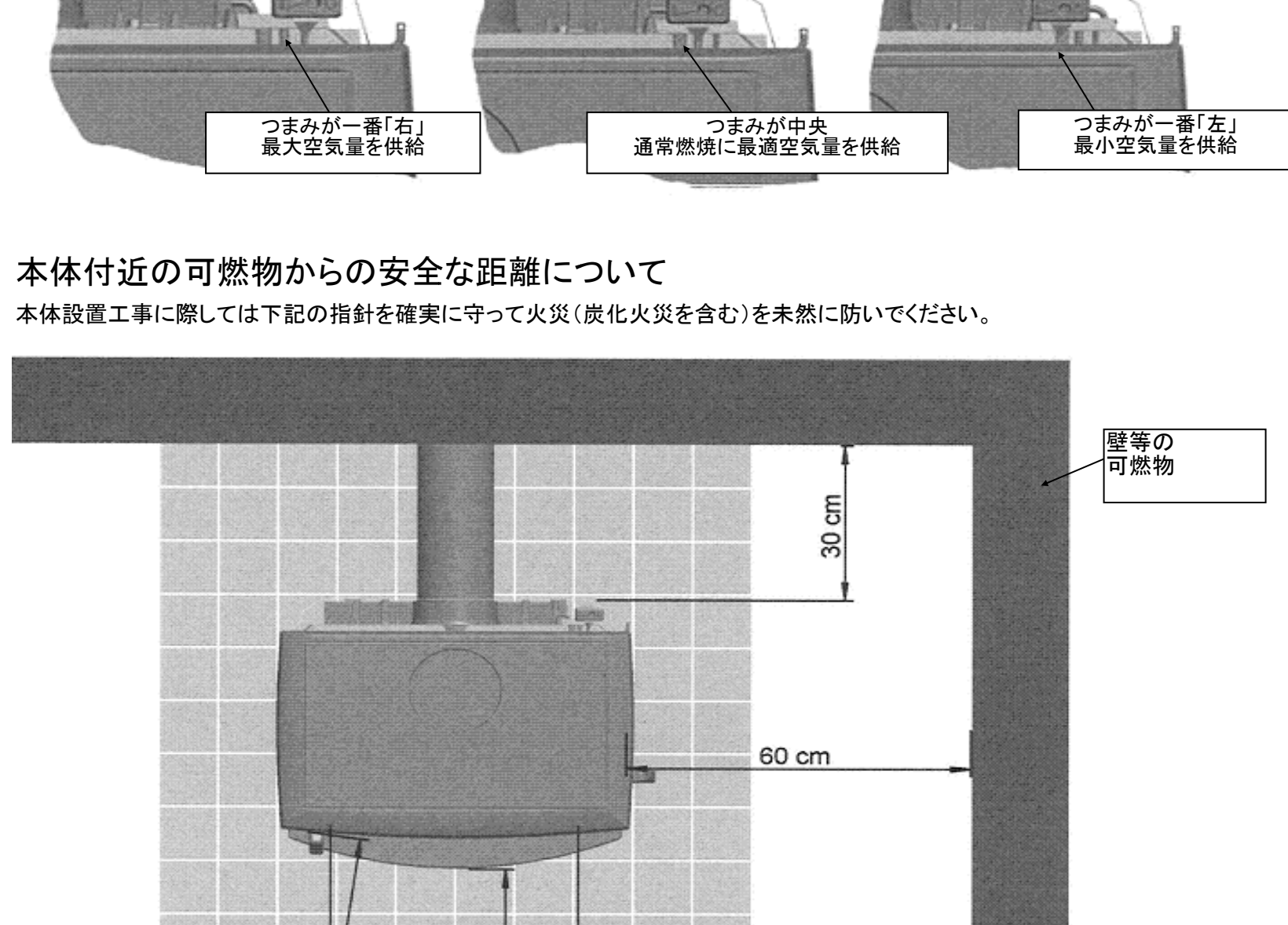
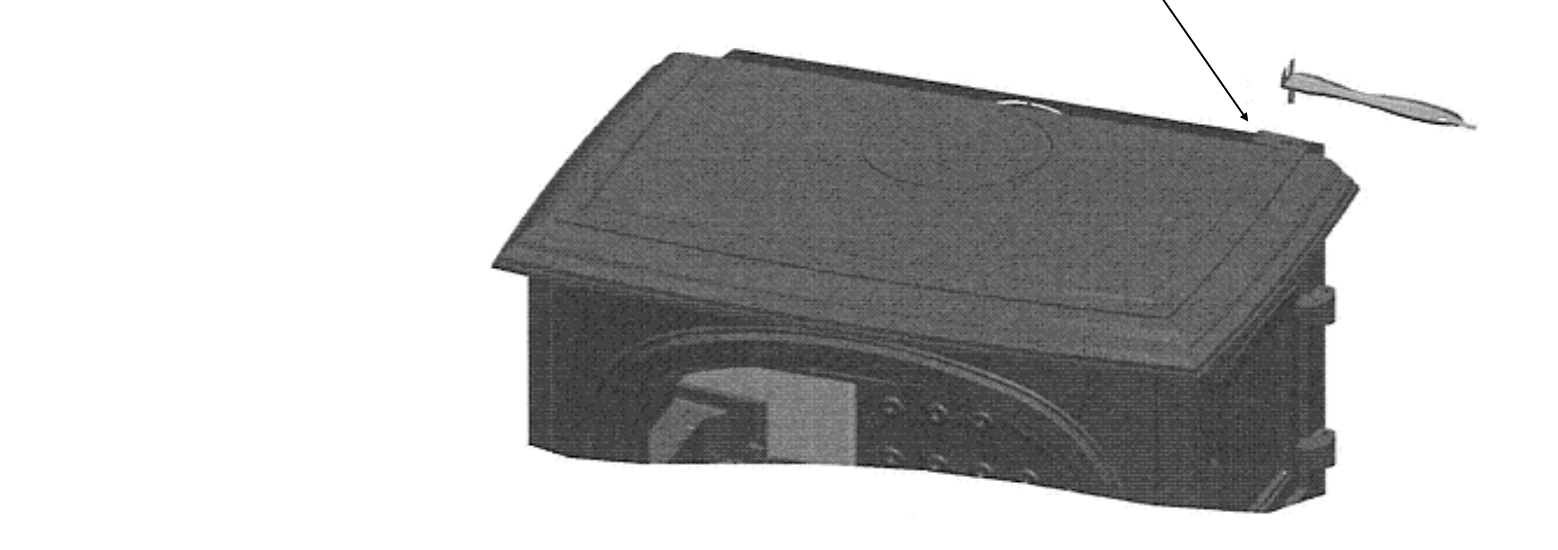
グスタフは背面排気の場合には、排煙筒(チムニー)と直接接続することも可能です。
上面からの排気をお選びになる場合は上部排煙口(Vertical flue outlet/Dark Grey)品番:479.0094.000を取り付けた後、排煙筒を接続してください。さらに背面排煙口に停止板(blanking plate)をはめてください。
排煙筒(チムニー)のサイズは150mmです。接続後ゆるみがないかご確認ください。
緩みがある場合はロッキングバンドなどで緩みを解消してください。

排煙筒設置に伴う注意点:

- 排煙筒の直径は途中で変更しないでください。
- ドラフトが強すぎる(空気を吸いすぎ)る場合は排煙筒途中でダンパーを設置して空気の流量を調節してください。
- 排煙口と排煙筒(チムニー)は空気漏れのないようにしっかりと接続してください。

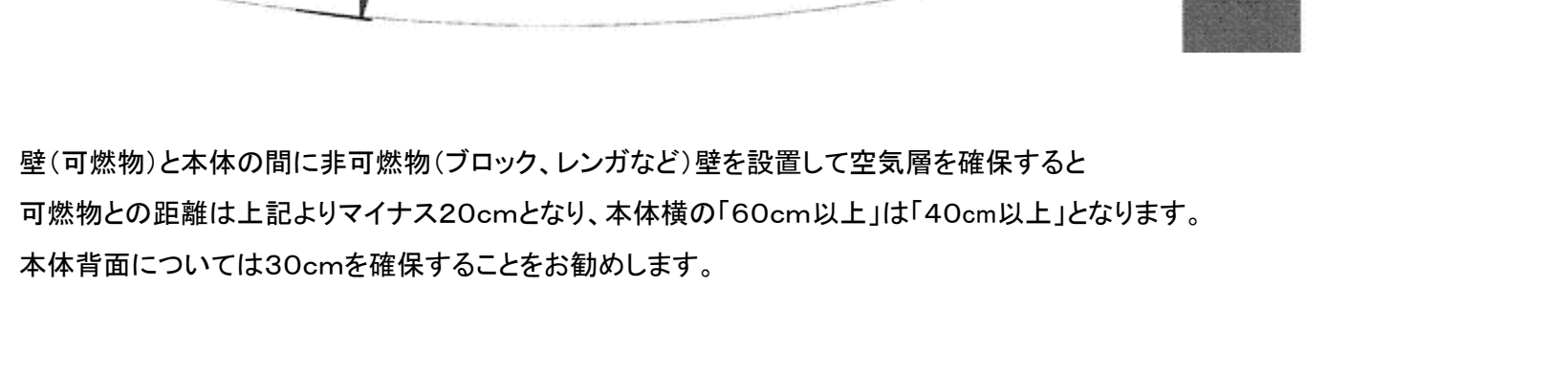
9 燃焼に必要な空気の供給

燃焼に必要な空気は本体背面下部の空気取り入れ口から供給されます。
ストーブ本体設置の部屋もしくは同じエリアにおいて換気扇(空気を外に排出する)が作動している場合に部屋内部の気圧低下を引き起こし必要なドラフト(排煙)が損なわれて正常な燃焼が妨げられる場合があります。
また天候(強風、霧、大雨など)によって十分なドラフトが得られない場合(着火しても自然消火する場合)も、揮発性物質を含む空気、チリホコリを大量に含む空気の供給は非常に危険な場合がございます。
■ もっとも望ましい燃焼空気の供給は外部から直接空気を取り込む方式です。
グスタフの外気導入パーツ(airbox)を利用すれば100m径のパイプを最大12mまで延ばして外気導入が可能になります。(エルボなどは1箇所1mとみなしてください。)
■ 外気導入システム(airbox)の取り付け方法



10 本体付近の可燃物からの安全な距離について

本体設置工事に際しては下記の指針を確実に守って火災(炭化火災を含む)を未然に防いでください。



壁(可燃物)と本体の間に非可燃物(ブロック、レンガなど)壁を設置して空気層を確保すると可燃物との距離は上記よりマイナス20cmとなり、本体横の「60cm以上」は「40cm以上」となります。本体背面については30cmを確保することをお勧めします。